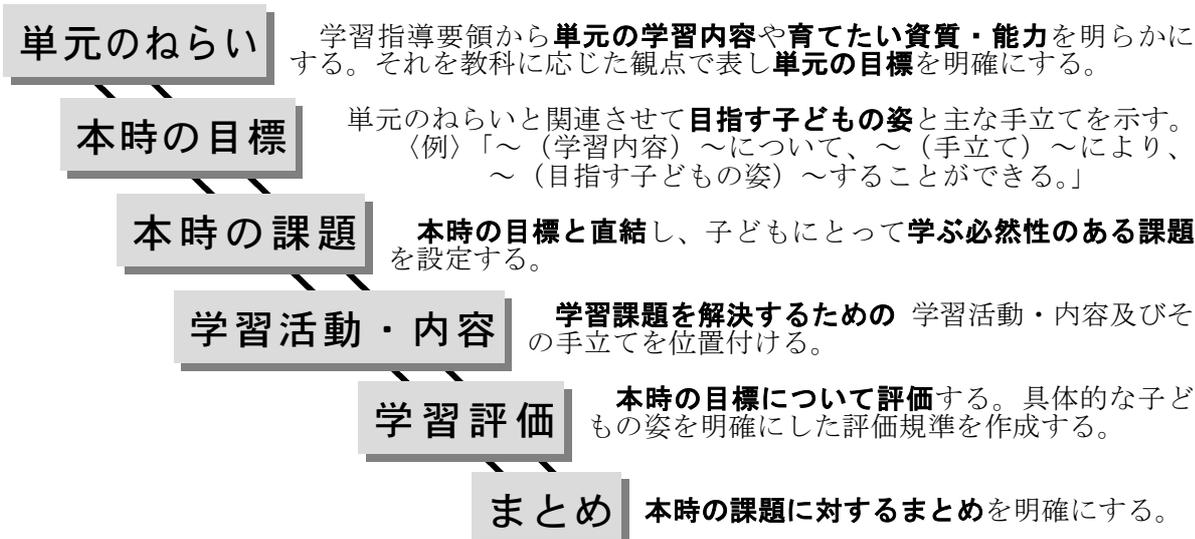


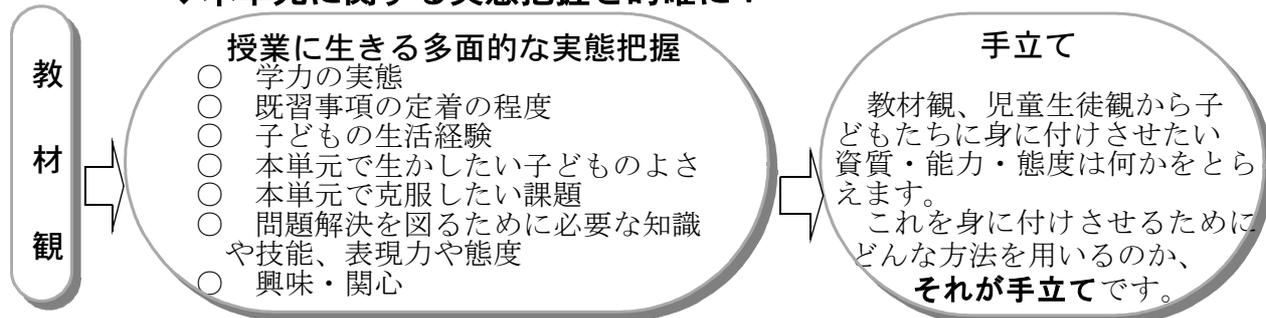
ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、 目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計

☆指導構想の整合性は？



☆本時のめざす姿を具現するための手立てとは？

◆本単元に関する実態把握を的確に！



<手立てが必要な場面>

<導入>

- A 学習課題の設定
- B 課題解決の見通し

<展開>

- C 課題解決能力を伸ばす個に応じた働きかけ（自力解決）
- D 思考の「共有」と「吟味」（学び合い）

<終末>

- E 学習を振り返る活動



<手立ての例>

<導入>

- 意欲を高める課題設定
 - A 具体物（実物）の活用
 - A 実演の提示
 - A ICTの活用
- 既習内容を活用した課題設定
 - A 体験活動の活用（見学や取材活動等）
 - A 統計、写真等の資料の活用
 - A 既習の振り返りから未習へ
- 課題解決の見通し
 - B 既習内容や既有経験の活用
 - B 答えの見当

【手立ての基本型】

～（具体的手立て）～
により

～（目指す姿）～
ようにする

（P.6 参照）

<展開>

- C 座席表等を活用した見取り
- C つまずきに応じた支援
- CD 考えの交流を図る学習形態（ペア、小グループ等）
- D 子どもの思考を促す発問
- D 子どもの考えや発言をつなぐ教師のコーディネート
- D 子どもの発言を生かした構造的な板書の活用

<終末>

- E 目標の達成状況のみる適用問題
- E キーワードや板書を活用した本時のまとめ
- E 自己評価表の活用や視点を明確にした学習感想の記入